

| | |
|------|------|
| 通し番号 | 3968 |
|------|------|

| | |
|------|-------------|
| 分類番号 | 15-44-12-08 |
|------|-------------|

| | |
|---|--|
| (成果情報名) ‘湘南オリオン’ に適した栽培法 | |
| [要約] 生育が旺盛な ‘湘南オリオン’ 種子の1 2週間低温処理で収穫開始が早まり、総収穫本数が増加し、切り花品質に問題はない。催芽種子への低温処理が、やや効果が大いだが、低温処理時、播種作業時の種子の傷みを防ぐため、無催芽種子の1 2週間の低温処理が適している。 | |
| (実施機関・部名) 神奈川県農業総合研究所 生物資源部 連絡先 0463-58-0333 | |

[背景・ねらい]

当所育成品種 ‘湘南オリオン’ は生育が旺盛で収穫後期にも草勢の衰えが少なく、高品質な切り花が収穫できるが、生育初期に栄養成長が旺盛になり着蕾が遅れ、総収穫本数が減少する傾向が見られる。そこで ‘湘南オリオン’ に適した栽培法を検討する。

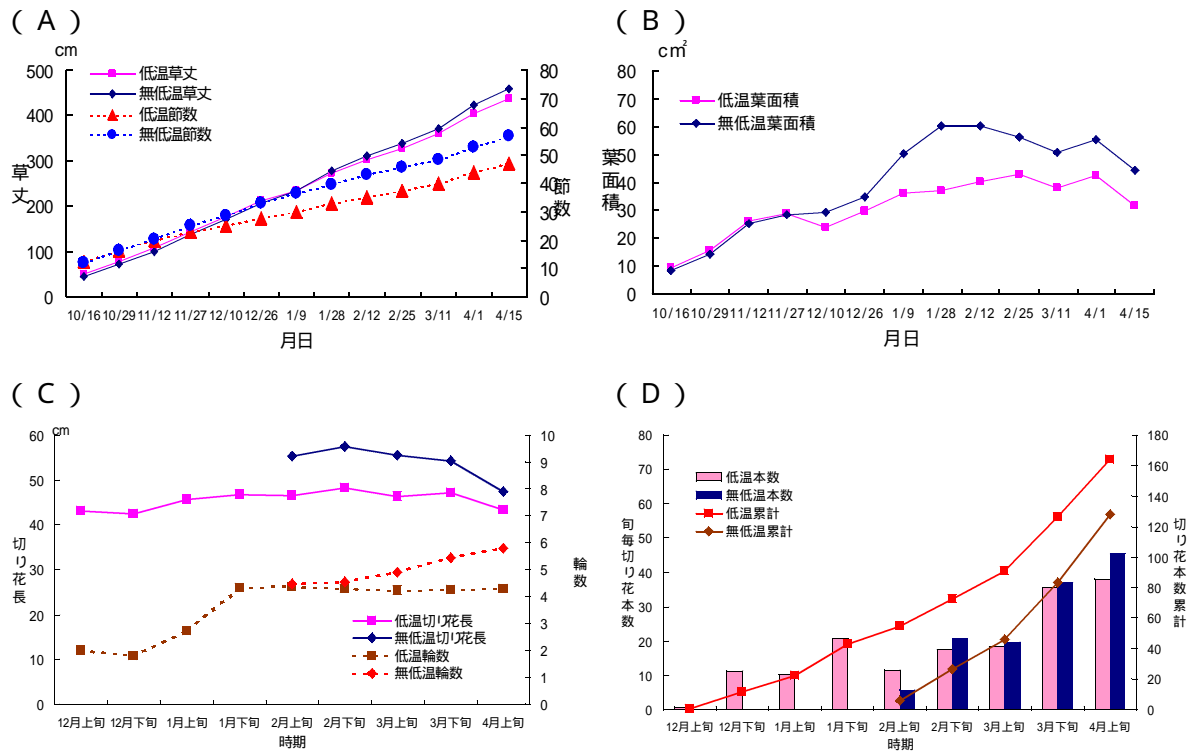
[成果の内容・特徴]

- 1 催芽種子への1 2週間の低温処理は草丈の伸長に影響せず、葉面積の増加は緩やかとなり草勢が安定する(図1 AおよびB)。
- 2 催芽種子を1 2週間で低温処理することで発蕾節位が低下し、落蕾が減少するため収穫開始が早まり、総収穫本数が増加する。切り花長はやや短くなり、小花数は少なくなるが、切り花品質としては問題がない(図1 CおよびD)。
- 3 1 2週間の低温処理は、催芽の有無に関係なく発蕾節位を低下させるが、催芽種子でやや効果が大い(表1)。
- 4 1 1週間の処理は、催芽の有無に関係なく発蕾節位の低下に影響しない。1 3週間の処理では催芽の有無に関係なく、発蕾節位は著しく低下し、草勢が劣る(表1)。
- 5 低温処理時や播種作業時の種子の傷みが少ない無催芽種子の1 2週間の低温処理が適している。

[成果の活用面・留意点]

- 1 低温処理を行う温度により効果が異なる。

[具体的データ]



低温処理：催芽種子を1 2週間

(A) 草丈および節数の推移、(B) 葉面積 (葉長 × 葉幅) の推移、(C) 切り花長および小花数の変化、(D) 10株あたり収穫本数
 図 1 低温処理が '湘南オリオン' の生育および切り花に及ぼす影響 (2002年12 ~ 2003年4月)

表 1 催芽処理の有無および低温処理期間が '湘南オリオン' の発蕾節位に及ぼす影響

| 低温処理 ^z | 発蕾節位 | |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| | 催芽有り ^y | 催芽無し ^x |
| 3 週間 | 11.2 | 12.5 |
| 2 週間 | 16.2 | 19.5 |
| 1 週間 | 26.2 | 26.1 |
| 対照 ^w | 25.8 | |

LSD0.05=1.93

^z 低温処理；1 ~ 2、^y 吸水後20 で催芽し、根または芽の伸長が確認できた後に低温処理、^x 吸水後ただちに低温処理、^w 吸水後20 で催芽し、根または芽の伸長を確認した後に播種

[資料名] 平成14, 15年度試験研究成績書 (花き・観賞樹)

[研究課題名] スイートピーの新品種育成

'湘南オリオン' に適した栽培法の検討

[研究期間] 平成14 ~ 15年度

[研究者担当名] 柳下良美